

令和5年7月28日

## 調査・研修報告書（議員用）

報告者：松本 みのり

実施場所：全国市町村国際文化研修所  
（滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号）

実施日：令和5年7月3日～5日

### ■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

#### 【社会保障・社会福祉】

社会の中で、孤立、困窮する人をどうしたら救い、減らしていけるのか、各地、各分野での取り組みを学び、庄原市としての取り組みの一つでも活かしたい。

### ■参考とすべき事項

#### 【若者の孤独・孤立】

- \* 24h365日、誰でも無料、匿名で利用できるチャット相談「NPO法人あなたのいばしょ」
  - ・全世界に700人の相談員を配置し、相談データを分析し、根拠に基づいた支援をしている。
  - ・相談員の相談に力を入れている。
  - ・自殺に追い込まれる人は、1人4つ以上の問題を抱えているという。
  - ・問題解決までは出来ないが、一緒に歩んで考える。
  - ・「とりあえず生きてみます。」
  - ・傾聴で、「マイナス」から「ゼロ」へ。
- \* 「ゼロ」から「プラス」は地域でやる。
- \* 孤独＝主観的概念      孤立＝客観的概念
- \* 孤立していても孤独でない人もいれば、孤立していなくても孤独な人もいる。
- \* 孤独を重症化させない。

#### 【地域包括ケア】

- \* 「地域包括ケア」って何？この言葉だと、具体的な施策が浮かばない。
- \* 埼玉県和光市の高齢者が介護保険を卒業出来る理由→「通いの場」づくり
- \* 「認知症フレンドリー社会」「認知症ガイドブック」
- \* 制度をつくった後のフォローはどうか？
- \* 当事者の声を反映しているか？つくっただけになっていないか？
- \* 何のために会議を開き、どう施策に反映させているのか？
- \* 行政の課題スタートではなく、利用者の課題から考える。
- \* 設計主義から「巻き込む」「やらせる」へ。
- \* 条例を作ることより、プロセスが大事。
- \* 少数意見を拾う。

#### 【子ども虐待】

- \* 自己評価の低い人ほど虐待してしまう。
- \* 子どもに暴力を振るいつつ、子どもを手放すことが出来ない。
- \* 自分の心のバランスを保つために乱用する対象が必要？
- \* 親にネグレクトされる子が社会からネグレクトされる2重の構造。
- \* ネグレクトでも死ぬ。
  - 死亡事例の約30%はネグレクトによる。
- \* 児相は身体的虐待と性的虐待に手一杯でネグレクトまで手が回っていない。

\*虐待における性被害は日本では1%しか検知されていないが、国際的には10%。(検知できていない数字もあるのではないか?)

\*心理的虐待→子どものトラウマとなる言動、存在価値の否定、DVの目撃

\*社会的養護の必要な子どもの80%が施設に行っている。

\*一時保護→通告20万件中一時保護は約4万8000件。施設入所4500人。  
重症例でも受け皿がないと、保護せず在宅支援。

\*しつけと虐待に境目はない。

\*里親12000人中、7000人が養育中。

### 【生活困窮】

\*生活困窮とは?→困っているのはお金だけとは限らない。

\*子どもの貧困だけを切り取ることは出来ない。

\*生活困窮に陥らせない施策が最も大事。

\*「なんかあったらあそこに行こう」と思える場をつくる。

\*生活保護の不正受給は全体の0.45%。

\*受給から漏れている人は、不正受給の888倍。

\*要保護世帯のうち、受給世帯は20%。

\*地域の中で、誰がどこまで出来て、どこまでは出来ないのかはつきりさせておかないといけない。

### 【すべての人を取りこぼさない支援、社会のあり方とは?】

\*すべての人とはどんな人?→イメージ出来ていない人は取りこぼされる。

### ■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

\*すべての支援は、支える側の支援も必要。自分に余裕がないと人の支えにもなれない。職員の負担軽減をあらゆる部署で検討するべき。

→何のための会議か?何のための書類か?本当に必要なのか?を考える、仕事の棚卸しが必要。

\*すべてを市で抱え込まず、「あなたのいばしょ」のような外部のツールを活用し、まずはマイナスをゼロに変えていく。

市は、ゼロをプラスにするための、通いの場、受け皿を地域ごとにつくるための支援に力を入れる。市民の力を信じて支える。

\*地域課題解決に楽しみながら取り組める人を増やし、育てる。→京都信用金庫さんの取り組みを参考に。

\*困っている当事者に寄り添う余裕を失わないこと。

\*出来ない理由を伝えるだけでなく、何なら出来るか、どうしたら出来るかを見つけようとする。困っている人を困ったままで放置しない。自分や自組織で解決出来ないことは、解決出来そうな人や組織に繋ごうとする。

\*ルールは人の助けになるために生まれたもの。ルールを絶対とするのではなく、人や時代に合わなくなったルールを見直し、変えていくことも必要。本当にこれで良いのか、ルールを疑う心も持つこと。何のためのルールなのかを常に考える。

\*完璧を目指さず、許しあう。足りないところを補い合える空気が、生きづらさを減らしていく。

\*いい加減は良い加減。自分にも他人にも、もっとOKを出していく。

\*出来ていないところは、「のびしろ」と捉え、学んでいく。